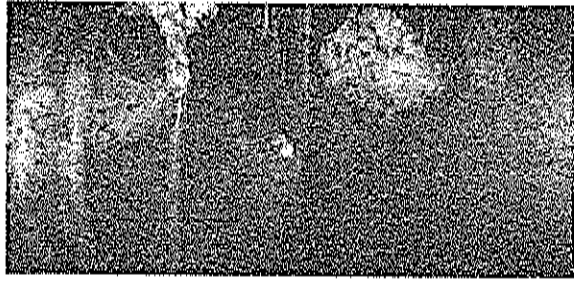


格納容器内の画像公開

福島原発1号機 つらら状の物体付着



1号機の原子炉圧力容器下部の脱落した制御棒駆動機構を撮影した写真(東京電力提供)

東京電力は18日、福島第1原発で小型ドロロンを使った1号機の原子炉格納容器内部調査で撮影した画像を公開しました。原子炉圧力容器下部にある制御棒駆動機構の一部が脱落し、つらら状や塊状の物体が付着していることが確認されました。

事故で炉心溶融を起こした1号機格納容器内の調査は、これまで水中ロボットで実施。底部の堆積物の分布や原子炉圧力容器を支える土台(ベドスタル)の大半でコンクリートが失われ、鉄筋がむき出しになった状況などが判明しています。今回の調査では、水面より上の状況を把握するために、カメラを搭載した小型ドロロンを投入しました。撮影された画像は14日に実施した際のもので、制御棒駆動機構は核分裂を制御するため制

御棒を出し入れする装置ですが、画像では駆動機構が脱落し、下に落下したものが映っていました。駆動機構には上部から移動してきたとみられる、つらら状や塊状の物体が付着しているのが確認されました。また水面より上の土台の内壁に大きな損傷はなかったとしています。

確認された物体について東電は「(溶け落ちた)燃料デブリかどうか、明確に判断できない」と述べました。